

日本救急医療財団の活動報告

橋本 昌男 事務局長

2022年10月中旬から12月上旬までの財団の活動について報告します。

研修研究部門に関する報告

風間 和則 研修研究部

1. AEDの内部データ利用・検証に関する作業部会（分析・検証）について

AEDの内部データ利用・検証に関する作業部会において、昨年度取り纏められた報告書に基づき、実際のAED使用事例の報告があった内部データの分析・検証体制の整備について検討するため、10月17日（月）に令和4年度第1回同作業部会をWEB会議にて開催し、検証の手順、課題、役割等を議題として意見交換を行いました。

また、第1回同作業部会を踏まえ、11月24日（木）に第2回同作業部会を開催し、検証の課題として、オートショックAEDの実データの確認を踏まえた意見交換を行うとともに、オートショックAED製造業者からのヒアリングを実施しました。

会議では各委員からの活発なご意見交換がなされ、引き続き内部データの分析・検証体制について検討し、体制整備を図る事としています。

2. 令和4年度救急医療業務実地修練等研修事業について

○保健師等救急医療指導者講習会

令和4年12月2日（金）から12月3日（土）までの2日間、今年度も新型コロナウイルス感染症を踏まえ、安全、確実に研修を実施するためオンライン（Zoom）による保健師等救急医療指導者講習会を開催しました。

本講習会は、保健所等の行政機関又は公共機関に勤務する保健師等を対象とし、地域における救急蘇生法等（乳児・小児の応急手当等を含む）に関する普及方策等の企画・運営を行う者の養成を図ることを目的に全国から23名の受講者が参加されました。

講習会の内容は、①地域包括ケアシステムと救急医療、②災害医療における保健所の役割、③災害医療コーディネーターとの連携における保健師等の役割（WS）、④新型コロナウイルス感染症対策について（WS）、⑤事故予防（総論）、（各論）、⑥乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習、⑦心肺停止事象が公衆衛生に及ぼす影響と救命の連鎖、⑧学校保健と救急蘇生法指導、⑨母子保健と救急蘇生法指導（心停止予防・事故防止を含む）（WS）を行い、ワークショップにおいては、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、活発な意見交換と受講者自身による体験を交えた議論により受講者相互間の交流が深められ大変有意義な講習会となりました。

なお、今年度においても救急医療業務実地修練等研修事業については、オンラインにより研

修を実施することが決定されたため、「Zoom 操作マニュアル（受講者用）」等をリニューアルするとともに、受講者からの接続等に係る問合せにも対応できる体制を整え、支障なく研修を実施することとしています。

○病院前医療体制における指導医等研修（初級者）

令和4年12月7日（水）から12月8日（木）までの2日間、オンライン（Zoom）にて病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を実施しました。

本研修については、例年、大阪会場及び東京会場（各会場60名）で実施していましたが、オンラインでの研修に伴い、今年度も1回での実施となりました。

受講対象者は、3年以上の救急臨床歴があり、①これからMCを始める医師、②現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、③救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、④二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、全国から121名（修了者120名）の受講者が参加されました。

研修の内容は、①救急医療とメディカルコントロール、②救急業務の担い手と医師の業務、③メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠、④メディカルコントロールの現状と課題（WS）、⑤オンラインで行う指示、指導・助言（講義・WS）、⑥医師が出動する医療でのMC、⑦プロトコールの読み方・使い方（講義・WS）、⑧検証とフィードバック（講義・WS）、⑨病院実習における教育（講義・WS）を行い、ワークショップにおいては、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、121名を16班に分け、講師とファシリテータ3名により各班のディスカッションのサポートを行いました。また、事前に各班にリーダー役の受講者を指名して実施したことにより、各課題に対する活発な意見交換等と質疑が交わされ、受講者相互間の交流が深められ大変有意義な研修となりました。